

# 看護技術演習「静脈血採血」における自己学習の実施に 影響を与える要因の検討

## A Study of Factors Influenced by Self-learning on Blood Sampling Training

平栗智美<sup>1</sup>，安藤郁子<sup>1</sup>，塚原節子<sup>1</sup>

Tomomi HIRAGURI, Ikuko ANDO, Setsuko TSUKAHARA

<sup>1</sup> 常葉大学健康科学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Health Science, Tokoha University

### 【要 旨】

看護技術演習「静脈血採血」に向けた自己学習の実施状況を調査し、自己学習を実施するきっかけになった要因について検討することを目的に、看護学生 74 名を対象に自記式質問紙による縦断調査を実施した。

静脈血採血は看護師として必要な技術だと感じ、学習不足について認識した学生は自己学習を実施している傾向にあった。また、自己効力感が高い学生は、演習に向けた自己学習として既習の授業プリントや教科書をよく見ている傾向にあり、静脈血採血に関連する知識の復習や積み重ねができていた。一方、看護師体験に不安を感じることは自己学習の実施と関連がなかった。不安が自己学習を促進していなかった要因として、学生は静脈血採血を体験する際に困難や気かりに感じていることを明確にできていない可能性があり、不安を軽減する方法の一つである自己学習を行うといった行動までに至らなかった可能性が示唆された。

---

Key Words : 自己学習, 看護技術演習, 静脈血採血, 看護師体験, 患者体験

### 1. はじめに

看護技術の複雑化・多様化や国民の安全意識の高まりの中で、学生が体験できる看護技術は限定される傾向にある。特に身体侵襲を伴う看護技術は、学生が患者に直接提供する機会が得にくくなっている<sup>1)2)</sup>。看護基礎教育の技術項目の中で静脈血採血は、卒業時の到達度を学内演習で実施できる<sup>3)4)</sup>こととして位置づけられている。静脈血採血の学内演習方法には、モデル人形を用いた方法と学生間で実際に静脈血採血を実施する方法があり、どちらの方法を

取り入れているのかは看護師養成機関の教育体制や方針によって違っている。大西ら<sup>5)</sup>が行った日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程を受講している看護師を対象にした調査では、80.0%の看護師が学生の頃に学生間で静脈血採血を体験学習していたことが報告されている。

学生間で静脈血採血を体験学習することは、相手の感情に沿い、相手を思いやる、相手の立場へ意識をむけることができ、看護者として対象の安全に配慮する姿勢について考える機会となる<sup>6)</sup>。また、静脈血採血の成功体験が学生の自信に結びつく<sup>7)</sup>など

の効果がある。

しかし、教員がいくら体験学習などの教授法を導入しても、学生自らが学習課題を見出し、学習の改善に努めなければ、効果的な目標達成は望めない<sup>8)</sup>。そのためには、学生は看護技術演習で既習の知識を想起し、その知識を看護技術に活用できるよう自己学習することが必要不可欠である。

そこで本研究は、看護技術演習「静脈血採血」の進行に合わせて自己学習の実施状況を調査し、自己学習を実施するきっかけになった要因について検討する。なお、本研究における自己学習とは、「学生が看護技術演習に向けて、授業時間外に行った学習」とする。

静脈血採血は身体侵襲を伴う看護技術であり、学生間で静脈血採血の体験学習を取り入れる際には安全面への十分な配慮が必要である。具体的に本校では、専門基礎科目で血管や神経走行に関する講義を行った後に、専門科目で看護技術演習「静脈血採血」を取り入れている。また、静脈血採血の実施はモデル人形を用いた技術チェックに合格し、実際に静脈血採血の体験を希望する学生のみが学生1人に対し1教員の指導体制で実施している。

## 2. 研究方法

### 2.1. 対象者

看護技術演習「静脈血採血」を受講しているA大学看護学科の学生75名を対象とした。性別の内訳は男性12名、女性63名であった。

### 2.2. 調査方法

調査期間は平成25年10月～平成26年1月であった。自記式質問紙による縦断調査を実施した。

質問紙は、各演習時間終了後に研究者が看護実習室で配布し、看護実習室内に設置した回収ボックスを用いて回収した。質問紙は演習の進行に合わせ4回配布した。

○1 回目：教員による静脈血採血のデモンストレーション後

○2 回目：学生が静脈血採血練習キット（さすぞー君）を用いて演習を行った後

○3 回目：学生間で静脈血採血を実施した後

○4 回目：演習科目「基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で習得する全ての看護技術項目が終了した後

### 2.3. 質問紙の内容

#### 2.3.1. 看護技術演習「静脈血採血」の体験内容

看護師（実際に人に針を刺す）体験の有無、患者（実際に針を刺される）体験の有無

#### 2.3.2. 自己学習の実施状況

演習に向けた自己学習「教科書を読む時間」「教科書の書き込みやアンダーラインの量」「看護実習室にあるVTRをみる回数」「既習の授業プリントや教科書を見る時間」「廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数」「インターネットを利用して調べる時間」「教員にアドバイスを求める」「看護師として働いている知人にアドバイスを求める」「他の演習グループの学生にアドバイスを求める」「他校の学生にアドバイスを求める」「学校での練習回数」「家での練習回数」の12項目に対し、「とても減った」「減った」「変わらない」「増えた」「とても増えた」の5段階の順序尺度で評価した。

#### 2.3.3. 自己学習を実施するきっかけになった因子

##### (1) 自己学習を実施した理由

「教材に興味を持った」「演習内容に興味を持った」「学習が足りていないと思った」「学習不足について教員から指摘を受けた」「学習不足について患者役の学生から指摘を受けた」「学習しないと患者役の学生に迷惑をかけると思った」「練習（勉強）しようと友達に誘われた」「将来、看護師として必要な技術だと思った」「侵襲のある技術だと思った」「習得するのは難しい技術だと思った」の10項目に対し、「全くそう思わない」「そう思わない」「どちらでもない」「そう思う」「とてもそう思う」の5段階の順序尺度で評価した。

##### (2) 静脈血採血に対する思い・気持ち

「静脈血採血の看護師体験をするのは不安」「静脈

血採血の患者体験をするのは不安」「静脈血採血を体験したい」「看護師体験は今後の学習に役立つ」「患者体験は今後の学習に役立つ」「緊張しやすい」「過去に静脈血採血を受けた時に嫌な思いをしたことがある」の7項目に対し、「全くそう思わない」「そう思わない」「どちらでもない」「そう思う」「とてもそう思う」の5段階の順序尺度で評価した。

### (3) 自己効力感

成田ら<sup>9)</sup>が開発した特性的自己効力感尺度を用いた。特性的自己効力感尺度は1因子、23項目で構成される。本尺度の構成概念妥当性について、3つのパーソナリティ尺度（抑うつ性尺度 CES-D、自尊心尺度、性役割尺度）及び健康に関する主観的評価との相関関係の検討により確認されている。

本研究における特性的自己効力感尺度 23 項目の Cronbach の  $\alpha$  係数は  $\alpha=0.854$  であり、内的整合性が確認された。

### 2.4. 分析方法

記述統計により、対象者の年齢の平均値と標準偏差を算出した。性別、静脈血採血「看護師・患者」体験の有無については、各区分の割合を算出した。

自己学習の実施状況と自己学習を実施した理由、演習に対する思い・気持ち、自己効力感との関連については Spearman の順位相関係数を算出し、統計学的有意差の判定基準は5%とした。統計解析には、SPSS Statistics 22を用いた。

### 2.5. 倫理的配慮

研究への協力は任意参加を原則とし、参加同意後に演習の進行に合わせて質問紙を4回配布するが、どの段階であっても研究協力の同意撤回は可能であることを口頭と書面を用いて説明した。また、不参加や同意撤回によって、今後の学習や学生生活に不都合は生じないこと、質問紙の内容は成績評価にはいっさい影響しないことを説明し、質問紙の提出をもって、研究協力の同意が得られたものと判断した。

また、本調査が看護技術演習の進行を妨げたり、学習目標に影響を与えたりしないように科目責任者

や担当教員の許可を得た上で実施した。なお、本大学研究倫理委員会において調査実施の適否について、倫理的な側面の審議承認を得た上で実施した（研静14-10）。

## 3. 結果

### 3.1. 質問紙の回収率

看護技術演習「静脈血採血」を受講している学生75名のうち、74名から質問紙を回収した（回収率98.7%）。

対象者の平均年齢は  $19.2 \pm 1.7$  歳、性別の内訳は男性12名（16.2%）、女性62名（83.8%）であった。

### 3.2. 看護師体験、患者体験状況

看護技術演習「静脈血採血」で看護師体験をした学生は65名（87.8%）、患者体験をした学生は45名（60.8%）であった（表1）。

表1 看護技術演習「静脈血採血」における学生の体験

		n	(%)
看護師 (人に針を刺す体験)	体験した	65	(87.8)
	体験していない	9	(12.2)
患者 (針を刺される体験)	体験した	45	(60.8)
	体験していない	29	(39.2)
n=74			

### 3.3. 自己学習を実施した理由と自己学習の実施との関連

自己学習を実施した理由は自己学習の実施と弱い～強い関連を認めた（表2）。特に、学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習「教科書を読む時間」は、「学習が足りていないと思った」（ $r_s=0.73$ ,  $p=0.000$ ）、「学習しないと患者役の学生に迷惑をかけると思った」（ $r_s=0.71$ ,  $p=0.000$ ）、「将来、看護師として必要な技術だと思った」（ $r_s=0.73$ ,  $p=0.000$ ）の3項目と強い正の関連を認めた。

### 3.4. 静脈血採血に対する思い・気持ちと自己学習の実施との関連

静脈血採血に対する思い・気持ち「静脈血採血の患者体験をするのは不安」「静脈血採血を体験したい」「看護師体験は今後の学習に役立つ」「緊張しやすい」「過去に静脈血採血を受けた時に嫌な思いをしたこ

とがある」は、いずれも演習に向けた自己学習の実施と弱い関連を認めた(表3)。「静脈血採血の看護師体験をするのは不安」「患者体験は今後の学習に役立つ」は、演習に向けた自己学習の実施と有意な関連を認めなかった。

表2 自己学習を実施した理由と自己学習の実施との関連

	自己学習を実施した理由									
	教材に対する興味	演習内容に対する興味	学習が足りていない	学習不足への教員からの指摘	学習不足への患者役学生からの指摘	患者役の学生に迷惑をかける	友達からの誘い	看護師として必要な技術	侵襲のある技術	習得するのは難しい技術
静脈血採血練習キットを用いる演習に向けた自己学習										
教科書を読む時間	0.31 **	0.54 **	0.59 **	0.47 **	0.13	0.48 **	0.26 *	0.61 **	0.36 **	0.54 **
教科書の書き込みやアンダーラインの量	0.48 **	0.59 **	0.54 **	0.42 **	0.17	0.45 **	0.23 *	0.59 **	0.48 **	0.49 **
看護実習室にあるVTRをみる回数	0.12	0.22	0.19	0.19	-0.05	0.23 *	0.28 *	0.37 **	0.20	0.20
既習の授業プリントや教科書を見る時間	0.26 *	0.55 **	0.48 **	0.28 *	0.09	0.46 **	0.20	0.46 **	0.34 **	0.44 **
廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数	0.35 *	0.51 **	0.48 **	0.43 **	0.13	0.29 *	0.26 *	0.48 **	0.23 *	0.49 **
インターネットを利用して調べる時間	0.27 *	0.28 *	0.20	0.06	0.09	0.38 **	0.12	0.26 *	0.22	0.19
教員にアドバイスを求める	0.51 **	0.50 **	0.35 **	0.25 *	0.08	0.36 **	0.46 **	0.45 **	0.24 *	0.36 **
看護師として働いている知人にアドバイスを求める	0.19	0.25 *	0.15	0.12	0.11	0.20	0.05	0.19	0.12	0.10
他の演習グループの学生にアドバイスを求める	0.19	0.36 **	0.43 **	0.43 **	0.09	0.38 **	0.37 **	0.48 **	0.27 *	0.49 **
他校の学生にアドバイスを求める	-0.03	-0.02	0.19	0.03	-0.28 *	0.10	0.03	0.17	-0.01	0.12
学校での練習回数	0.23 *	0.34 **	0.37 **	0.14	-0.09	0.28 *	0.38 **	0.35 **	0.20	0.47 **
家での練習回数	0.37 **	0.43 **	0.41 **	0.26 *	0.27 *	0.44 **	0.01	0.37 **	0.29 *	0.42 **
学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習										
教科書を読む時間	0.55 **	0.69 **	0.73 **	0.40 **	0.02	0.71 **	0.59 **	0.73 **	0.64 **	0.64 **
教科書の書き込みやアンダーラインの量	0.48 **	0.58 **	0.49 **	0.18	0.06	0.49 **	0.56 **	0.49 **	0.33 **	0.40 **
看護実習室にあるVTRをみる回数	0.19	0.18	0.15	0.23	0.01	0.12	0.36 **	0.14	0.07	0.05
既習の授業プリントや教科書を見る時間	0.51 **	0.52 **	0.54 **	0.38 **	0.06	0.49 **	0.51 **	0.59 **	0.51 **	0.46 **
廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数	0.45 **	0.64 **	0.55 **	0.41 **	0.01	0.49 **	0.52 **	0.54 **	0.51 **	0.52 **
インターネットを利用して調べる時間	0.49 **	0.47 **	0.55 **	0.22	-0.05	0.34 **	0.35 **	0.43 **	0.33 **	0.32 *
教員にアドバイスを求める	0.30 *	0.49 **	0.54 **	0.32 **	-0.07	0.61 **	0.58 **	0.65 **	0.56 **	0.57 **
看護師として働いている知人にアドバイスを求める	0.09	0.23	0.12	0.18	-0.06	0.21	0.15	0.18	0.30 *	0.16
他の演習グループの学生にアドバイスを求める	0.47 **	0.65 **	0.61 **	0.41 **	-0.06	0.67 **	0.57 **	0.65 **	0.56 **	0.52 **
他校の学生にアドバイスを求める	-0.04	0.18	0.00	-0.24	-0.43 **	0.14	-0.21	0.15	0.12	0.17
学校での練習回数	0.55 **	0.59 **	0.53 **	0.41 **	-0.09	0.69 **	0.64 **	0.68 **	0.62 **	0.63 **
家での練習回数	0.55 **	0.64 **	0.56 **	0.17	0.06	0.42 **	0.36 **	0.54 **	0.47 **	0.36 **
Spearmanの順位相関係数									** p<0.01	* p<0.05

表3 静脈血採血に対する思い・気持ちと自己学習の実施との関連

	静脈血採血に対する思い・気持ち						
	静脈血採血 「看護師体験」は 不安	静脈血採血 「患者体験」は 不安	静脈血採血を 体験したい	静脈血採血 「看護師体験」 今後の学習に 役立つ	静脈血採血 「患者体験」は 今後の学習に 役立つ	緊張しやすい	過去に 静脈血採血を 受けた時に 嫌な思いを したことがある
静脈血採血練習キットを用いる演習に向けた自己学習							
教科書を読む時間	0.21	0.22	-0.10	0.00	0.02	0.07	0.02
教科書の書き込みやアンダーラインの量	0.13	0.22	-0.05	-0.07	0.06	0.06	0.10
看護実習室にあるVTRをみる回数	0.18	-0.08	0.28 *	0.24 *	0.18	0.02	-0.17
既習の授業プリントや教科書を見る時間	0.04	0.10	-0.12	-0.17	-0.06	0.19	0.04
廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数	-0.07	0.08	-0.03	-0.02	-0.12	0.08	-0.01
インターネットを利用して調べる時間	0.13	0.08	-0.14	-0.08	0.03	0.03	0.06
教員にアドバイスを求める	-0.10	0.11	0.02	-0.32 **	-0.20	0.03	-0.05
看護師として働いている知人にアドバイスを求める	-0.17	-0.06	0.09	0.07	-0.04	-0.08	0.03
他の演習グループの学生にアドバイスを求める	-0.05	0.09	-0.15	-0.07	-0.17	0.11	-0.03
他校の学生にアドバイスを求める	-0.03	-0.18	0.00	-0.03	-0.13	0.00	0.08
学校での練習回数	0.18	0.06	-0.01	-0.04	0.03	0.23 *	-0.01
家での練習回数	0.16	0.24 *	-0.10	-0.03	0.02	0.00	0.26 *
学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習							
教科書を読む時間	0.08	-0.12	0.25 *	-0.06	0.15	-0.17	0.08
教科書の書き込みやアンダーラインの量	-0.03	-0.06	0.22	-0.01	0.12	-0.14	-0.09
看護実習室にあるVTRをみる回数	0.20	0.02	0.16	0.07	0.06	-0.11	0.36 **
既習の授業プリントや教科書を見る時間	0.11	-0.21	0.22	0.01	0.12	-0.19	0.16
廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数	0.04	-0.11	0.17	-0.08	0.17	-0.16	0.10
インターネットを利用して調べる時間	0.07	-0.10	-0.09	-0.19	0.01	-0.02	0.22
教員にアドバイスを求める	0.00	-0.19	0.03	-0.07	0.01	-0.33 **	0.10
看護師として働いている知人にアドバイスを求める	-0.08	-0.13	0.14	0.24	0.07	-0.05	0.03
他の演習グループの学生にアドバイスを求める	-0.04	-0.18	0.01	-0.11	0.01	-0.21	-0.04
他校の学生にアドバイスを求める	0.15	0.05	0.22	0.22	0.24	0.08	0.14
学校での練習回数	0.07	-0.18	0.04	-0.11	0.15	-0.13	0.12
家での練習回数	0.08	0.07	0.04	-0.11	-0.05	-0.04	0.28 *
Spearmanの順位相関係数						** p<0.01	* p<0.05

### 3.5. 自己効力感と自己学習の実施との関連

自己効力感は、学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習「既習の授業プリントや教科書を見る時間」( $r_s=0.42$ ,  $p=0.001$ ), 「家での練習回数」( $r_s=0.50$ ,  $p=0.000$ ) の2項目と中程度の正の

関連を認めた(表4).

学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習「教科書を読む時間」( $r_s=0.31$ ,  $p=0.018$ ), 「教科書の書き込みアンダーラインの量」( $r_s=0.28$ ,  $p=0.029$ ), 「看護実習室にあるVTRをみる回数」( $r_s$



=0.33,  $p=0.010$ ), 「教員にアドバイスを求める」( $r_s=0.33, p=0.011$ ), 「看護師として働いている知人にアドバイスを求める」( $r_s=0.30, p=0.022$ ), 「他の演習グループの学生にアドバイスを求める」( $r_s=0.32, p=0.013$ ), 「学校での練習回数」( $r_s=0.32, p=0.013$ ) の7項目は、自己効力感と弱い正の関連を認めた。

表4 自己効力感と自己学習の実施との関連

	自己効力感
学生間で静脈血採血を実施する演習に向けた自己学習	
教科書を読む時間	0.31 *
教科書の書き込みやアンダーラインの量	0.28 *
看護実習室にあるVTRをみる回数	0.33 *
既習の授業プリントや教科書を見る時間	0.42 **
廊下に掲示した血管・神経走行の解剖図を見る回数	0.25
インターネットを利用して調べる時間	0.00
教員にアドバイスを求める	0.33 *
看護師として働いている知人にアドバイスを求める	0.30 *
他の演習グループの学生にアドバイスを求める	0.32 *
他校の学生にアドバイスを求める	0.08
学校での練習回数	0.32 *
家での練習回数	0.50 **
Spearmanの順位相関係数	** $p<0.01$ * $p<0.05$

## 4. 考察

### 4.1. 自己学習を実施した理由と自己学習の実施との関連

静脈血採血は看護師として必要な技術だと感じ、患者役の学生に迷惑をかけられない、学習不足について認識した学生は自己学習を実施している傾向にあった。これは、学生が看護技術「静脈血採血」を体験することの必要性や学習不足を認識する過程において、自己の課題や目標を明らかにすることで、自己学習の実施につながったと考える。

一方、本調査では自己学習を実施した理由と、演習に向けた自己学習「看護実習室にある VTR をみる回数」との関連は弱かった。その理由として、学生が看護実習室の視聴機材の操作に慣れていないことが考えられる。塚越ら<sup>10)</sup>は、VTR の学習効果として、見るのが難しいものを視覚化でき、静止・

繰り返し見ることができるなどの利点があり、教員の行うデモンストレーションと VTR の視聴を組み合わせることで学習効果が高くなると述べている。VTR を視聴することは、学生が教員によるデモンストレーションの段階で見逃してしまったことや、教科書に掲載されている一定方向からの写真では確認しにくい技術を確認するのに効果があると言えるため、本校においても学生が VTR を活用した自己学習が行えるように環境を整える必要がある。

### 4.2. 静脈血採血に対する思い・気持ちと自己学習の実施との関連

学生にとって、静脈血採血の看護師・患者役割を体験することは、互いに不安や緊張を伴う。本調査でも、多くの学生が看護師や患者体験することに不安を感じたり、自分は緊張しやすいと認識したりしていた。しかし、表3の結果から、静脈血採血の看護師体験に不安を感じることは、演習に向けた自己学習の実施と関連がなかった。

不安が自己学習を促進していなかった要因として、不安とは漠然とした特定できない脅威に対する反応<sup>11)</sup>であり、学生は実際に静脈血採血を体験するにあたり何が脅威となっているのか、何について危惧しているのか明確にできていない可能性がある。そのため、不安を軽減する方法の一つである自己学習を行うといった行動までに至らなかったと考えられる。

そこで、学生が静脈血採血を体験する際に、困難に感じていること、気がかりに感じていることを学生自信が気づけるように支援していく必要がある。

### 4.3. 自己効力感と自己学習の実施との関連

自己効力感が高い学生は、演習に向けた自己学習として既習の授業プリントや教科書をみている傾向にあった。看護技術の実施には、基礎的な知識や既習科目の知識を応用する必要がある。自己効力感の高い学生は看護技術演習「静脈血採血」の体験に向けて、関連する知識の復習や積み重ねを実施しており、効果的な自己学習が行えている傾向にあったと考える。

また、自己効力感の高い学生は、演習に向けた自己学習として練習回数が多い傾向にあった。看護技術の習得はある程度、繰り返し実践しながら、徐々に習得されていくものである。特に学生の看護技術習得は①自分もあんなふうになりたいという全体的なイメージを「憧れ」として強く意識する。②「憧れ」に近づこうと「型」「形式」を模倣する。③ある程度できるようになった段階で、いろいろと工夫したりして自分なりの方法をみつける。コツをつかむ。といったプロセスがある<sup>12)</sup>。学生にとって看護技術を繰り返し練習することは、自分に合った方法や対象に合わせた技術提供の方法について考える機会となるため、学生が学習を継続できるよう支援していく必要がある。

## 5. 本研究の限界と今後の課題

本調査は対象数が少なく、回答に偏りもみられたため、因果関係の検討までは行えなかった。今後は測定方法の検討や、演習の進行に合わせた縦断調査を重ね、自己学習の実施に影響を与えた要因について分析を深めていく必要がある。

## 6. 結論

看護技術演習「静脈血採血」に向けた学生の自己学習と関連がある項目として、次のような結果を得た。

- 1) 静脈血採血は看護師として必要な技術だと感じ、患者役の学生に迷惑をかけられない、学習不足について認識した学生は自己学習を実施している傾向にあった。
- 2) 静脈血採血の看護師体験に不安を感じることは、演習に向けた自己学習の実施と相関がなかった。
- 3) 自己効力感が高い学生は、演習に向けた自己学習として既習の授業プリントや教科書をよくみている傾向にあり、看護技術演習「静脈血採血」の体験に向けて、関連する知識の復習や積

み重ねができていた。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、貴重な時間を割いて調査にご協力いただきました対象者の皆様に心より感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書 平成 15 年 3 月 17 日。2003.
- 2) 武田淳子：激動する社会の中で求められる看護学教育-臨床現場の変化、学生の多様化と看護学基礎教育の模索-。日本看護学教育学会誌, 23(2), 21-26, 2013.
- 3) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 平成 19 年 4 月 16 日。2007.
- 4) 水戸優子, 小山真理子, 片平伸子, 他：デルファイ調査による看護教育者と看護実践者が合意する看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標と到達度に関する検討。日本看護科学会誌, 31(3), 21-31, 2011.
- 5) 大西香代子, 大串靖子：基礎看護技術演習の体験に関する遡及的調査。三重看護学誌, 9, 89-95, 2007.
- 6) 鈴木真由美, 櫻井利江：学生相互間採血における看護学生の自己制御の機能と効果的な学習支援。日本看護技術学会誌, 13(2), 148-159, 2014.
- 7) 山崎智代, 平田礼子, 細谷智子, 他：学生間での採血技術演習における看護師役割体験の学習内容 - 学内演習後の質問紙調査の内容分析から -。医療保健学研究, 1, 183-191, 2010.
- 8) 山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志子：学生のための看護学実習中の学習経験自己評価尺度の開発 - 信頼性・妥当性の検証 -。日本看護学教育学会誌, 24(1), 15-27, 2014.
- 9) 成田健一, 下仲順子, 中里克治, 他：特性的自己効力感尺度の検討-生涯発達の利用の可能性を探る-。教育心理学研究, 43(3), 306-314, 1995.

- 10) 塚越フミエ, 堀良子, 野々村典子, 他: 看護技術における教材 VTR の学習効果. 日本看護科学会誌, 11(3), 92-93, 1991.
- 11) Lynda Juall Carpenito-Moyet, R.N., M.S.N., C.R.N.P.: 自己知覚パターン 不安 (新道幸恵, 監訳.), 看護診断ハンドブック 第9版, 350-355, 東京, 医学書院, 2011.
- 12) 新井英靖: 考える看護学生を育む授業づくりの基盤 (新井英靖, 編.), 考える看護学生を育む授業づくり 意欲と主体性を引き出す授業方法, 45-46, 東京, メジカルフレンド社, 2013.